

脳神経外科 科長
西野 和彦
にしの かずひこ

きょうは**脳神経外科**です



こんにちは診察室です。

頭がよくなる脳外科手術

こちらから『こんにちは診察室です。』のバックナンバーがご覧いただけます。

はじめに

みなさんの中には、もの忘れが増えてきたり、暗算が遅くなったり、芸能人の名前がすぐには思い出せなくなったりして不安を感じている方も多いと思います。



また、これらの症状は認知症の前ぶれかもしれないと心配されている方もいらっしゃるでしょう。そのような不安の中で「頭がよくなる脳外科手術」などと言われれば、興味といくらかの期待を持たれると思います。残念ながら、多少の物忘れがあっても元気に日々の生活を送っている方が脳外科手術を受けても、翌朝から微分積分ができたり、フランス語がペラペラと話せるようになるわけではありません。

頭の中に血液や髄液がたまることによって認知機能が低下した方に手術を行うと、認知機能が改善する（頭が良くなる）というお話です。

ここでは2つの病気について説明します（表1）。



慢性硬膜下血腫（図1）

この病気では、軽く頭をぶつけてから1～2ヶ月後に認知症のような症状があらわれます。

頭をぶつけたおぼえがない方も少なくありません。お酒をたくさん飲む方、抗血栓薬や抗凝固薬を内服している方に起こりやすい傾向があります。



しばしば鈍い頭痛や片側の手足の麻痺を伴います。認知機能低下や手足の麻痺の程度は日によって変動することがあります。

高齢者に多くみられますが、原因はわかっていません。



この病気も物忘れがひどくなり、ボーッとしていることが多くなります。歩幅が小さくヨチヨチ歩きになるのも特徴で、月単位で症状が悪くなります。おしっこが我慢できなくなるのも、しばしば見られる症状です。

通常の認知症の方のCT画像でも頭に脳脊髄液がたまっているように見えることがあるため、正常圧水頭症と診断するにはMRIを含むいくつかの検査が必要です。

診断が確定すれば、それに対する治療は頭の中にたまった脳脊髄液をシリコンの管を通して他の場所に流れるようにするシャント手術です。頭からお腹の中、腰椎からお腹の中へ流す2種類の方法があり、全身麻酔が必要です。

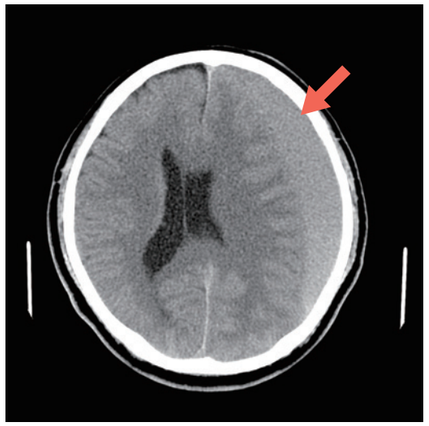
この手術後、効果が出やすいのは歩き姿ですが、認知機能も半数以上で改善が見られます。

正常圧水頭症（図2）

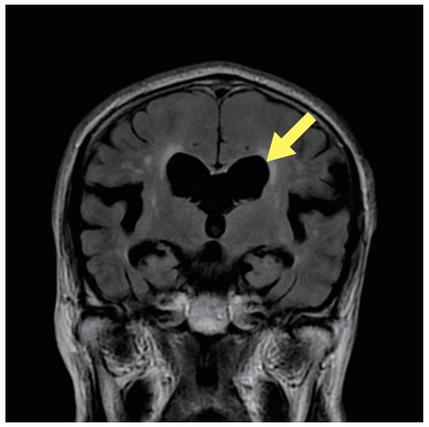
脳脊髄液は常に頭の中を循環していますが、これの水はけが悪くなり、頭の中に脳脊髄液がたまってしまうのが正常圧水頭症です。

や手足の麻痺が日に日に悪くなるのも特徴です。頭部CT検査で、すぐに診断することができます。

慢性硬膜下血腫の症状は、脳の外側にたまった血液が脳を圧迫するためにおこるので、手術で頭蓋骨に穴を開けてたまった血液を抜けば、ほとんどの方がすっかり元通りになります。局所麻酔での30分くらいの手術です。



【図1】 慢性硬膜下血腫
三日月形の部分（赤矢印）が、たまった血液



【図2】 正常圧水頭症
脳脊髄液の貯留（黄矢印）

おわりに

進行が早い認知機能低下、ヨチヨチ歩きを伴う認知機能低下が見られた場合には、脳神経外科や神経内科を受診することをお勧めします。手術で治る病気かもしれません。

	慢性硬膜下血腫	正常圧水頭症
原因	軽い頭部打撲	不明
なりやすい背景	酒飲み・抗血栓、抗凝固薬内服	高齢
認知機能低下以外の症状	頭痛・半身麻痺	小刻み歩行・尿失禁
進行のはやさ	数日単位	数ヶ月単位
診断方法	頭部CT検査のみ	MRI検査など複数
治療	ドレナージ手術（局所麻酔）	シャント手術（全身麻酔）
手術での改善率	高い	効果が不十分な場合もある

【表1】